

井尻公民館だより

(2023 年 9 月 1 日発行)

<令和 5 年 9 月号>

(第 234 号)

<連絡・問い合わせ先> 館長 窪田 道忠 ()
主事 相澤陸奥実 ()

名月や池をめぐりて夜もすがら 松尾芭蕉



絵手紙愛好会

関口和代

蝉もまだまだ夏を満喫してうるさく鳴いております。
9 月入っても残暑が続いております。

皆様に置かれては猛暑の中、大変の日々を過ごされておられるとお見舞い申し上げます。

8 月は体温に等しい猛暑日がつづきました。それから迷走した 6 号台風。本土に上陸した、ノロノロの 7 号で多くの被害が広範囲に起きてしまいました。ゲリラ豪雨も各地でもあり、毎年起きてしまう自然現象です。何時どこで起こりうるかも知れません。常に行動出来る気持ちと準備を心がけていましょう。

公民館では事業計画で 2 ページの案内の通り「井尻公民館ふれあい祭」を予定しております。コロナも「5 類」移行で、周囲でも感染情報も少ない状況であり、感染対策のもとで実施したく考えております。

皆様のご協力をお願い致します。

コロナ状況によっては変更になる場合があります。

「ふれあい祭」の詳しくは 10 月の「だより」でお知らせ致します。

花いっぱい運動

市の補助事業、花いっぱい運動で、花を購入しプランターに植栽しました。美しい花が楽しめますよ。



児童クラブの子らも、綺麗だねと、喜んでくれました。

お知らせ

「井尻公民館ふれあい祭について」

コロナの位置付けは5月から「5類」に引き下げになり、いろんな面で規制が緩和されていき、スポーツ、ライブ、各種イベント等が各地で行われてきております。

当公民館もコロナ関係でここ2年間ふれあい祭が中止されておりましたが、今回より再開することとしました。

例年開催は3月に行われていましたが今回から気候の良い芸術の秋に予定します。

10月28日(土)～29日(日)、地域産業の葡萄が終わり11月の枯露柿作りの始まる間としました。

内容としては、作品展と音楽イベントでの構成となります。

作品展には

絵画・絵手紙・写真・書道・手芸・陶芸・版画・生け花・

千切り絵・押し絵・さやか人形・俳句・川柳・短歌・他工作物

作品応募には2ヶ月近くありますが、今からの制作を願うものです。



「松里のむかし話」

私達が生まれ育った故郷の松里、歴史遺産、無形文化財と言える、民話、伝説など沢山あります。

近年の、この時代、社会情勢の変化のスピードは目まぐるしいばかりであります。

その激しい時の流れの中で、ややもすれば郷土が残すべき価値がある伝統の遺産への感心が薄れ、忘れられていく面も多々あるよう感じられます。

民話、伝説は語り継がれた、先人からのお土産であります。

今回の本は昭和 54 年 3 月 30 (1979) に発刊されたものです。当時、井尻公民館、松里公民館が中心となり、教育委員会の指導のもと、地域の先輩の皆さんの積極的な協力で作り上げました。そして、この本は松里地区の全戸と関係方面に配布されました。

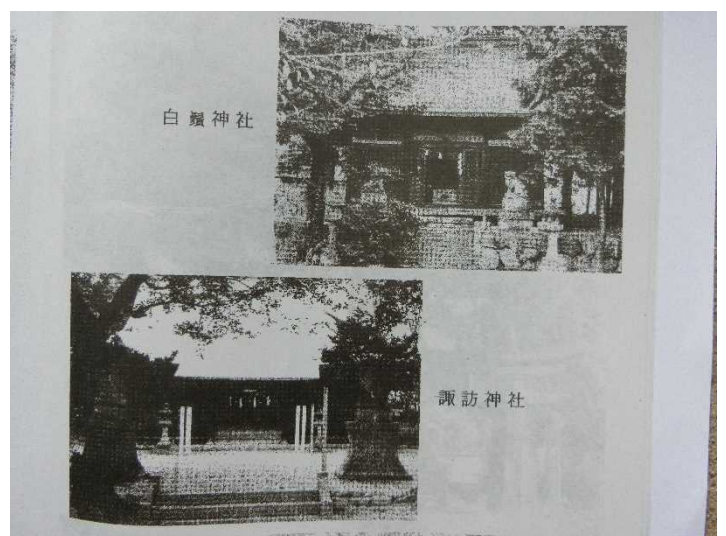
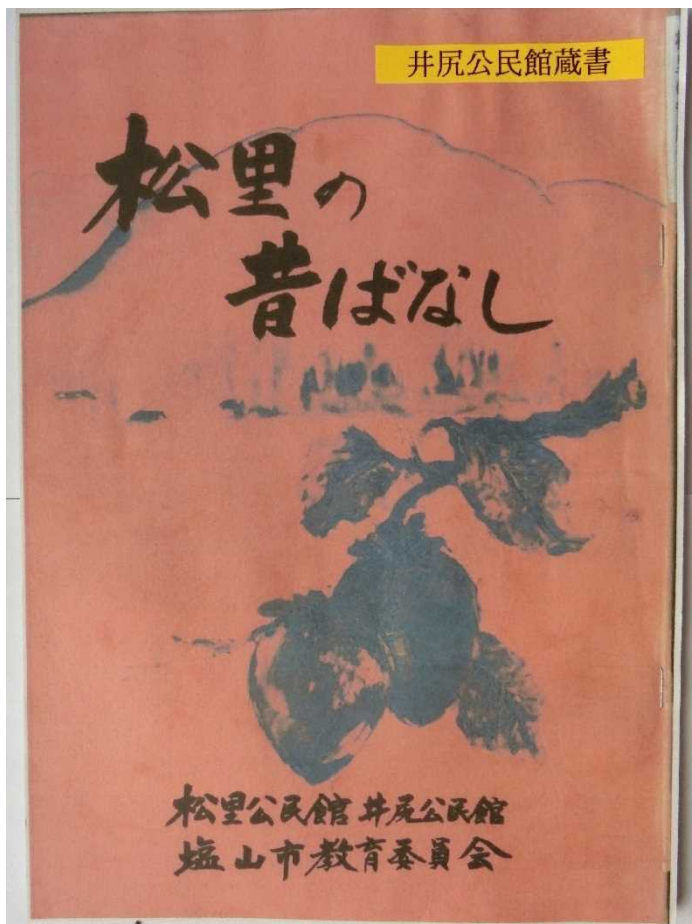
時代が進み、世代も変わり、本の存在さえわからなくなっているのではないのでしょうか。内容には、むかしの話、地名の由来、ふるさとの方言など、しかしながら、この間々だと次第に松里地域の歴史感が遠ざかって行ってしまう。

今回、生涯学習課の協力を頂き、再発刊に至りました。(ページ数 77)

この本は公民館の図書館で所蔵しており、貸し出用とし 20 冊用意しておりますのでご利用の方はお申し出てください。

松里地域も少子高齢であり人口減などで活力が失われて来ている、少子で地域中学校の統廃合とか地域に魅力度が益々なくいる環境であります。このままでは限界集落にもなりかねないと思います。

歴史あるこの地域、松里を元気、元気で住みよい活力ある地に皆で話題を考へ行動の糧にしましょう。



(川柳)

(井尻公民館川柳愛好会) 2023/7/28

地球ではみな地球人青い空
高齡化人の噂も遠くなり
人ごとと思えず涙堪える日
他人は他人わかつていても気にかかる
他人事首を突つ込み痛い目に
人知れず咲いてる花に君の名は
人は皆共に支えて生きる日々
人助け人道兵器クラストー
新時代老害の人絶好調

(久保 晃)

(三井厚子)

(田辺たみ子)

(古屋典子)

(雨宮江身子)

(石垣まさ子)

(中村廣一)

(関口正次)

(飯島武志)

(俳句)

(井尻公民館俳句愛好会) 2023/8/10

何の縁よくぞはるばるこの秋刀魚
露草や夕べの母の声とほる
露草や風の古道と旅人と
つゆくさの咲いて色出す露の精
朝に会い夕に別れか蛍草
露草の青に染まりし指の先
手折り来し空の片鱗帽子花
腹くくり今年も高値さんま焼く
明け残る月影に咲く蛍草

(飯島武志)

(野村可ね子)

(飯島和子)

(増田英仁)

(小林昂平)

(三森美恵子)

(鶴田光子)

(小笠原一子)

(三柵 淳)

(短歌)

(古屋和子)

八月は葡萄作りと新盆が
無事に済むよう提灯吊す

暑い夏トマト作りは上出来で
大玉・ミニと食事を色彩る

(久保 晃)

暴れたる今年の梅雨も漸くに
明けたる気配富士に夏雲

八つあるポケット全て空になる
軽くはなれど心虚しき